

群馬県議会 リベラル群馬

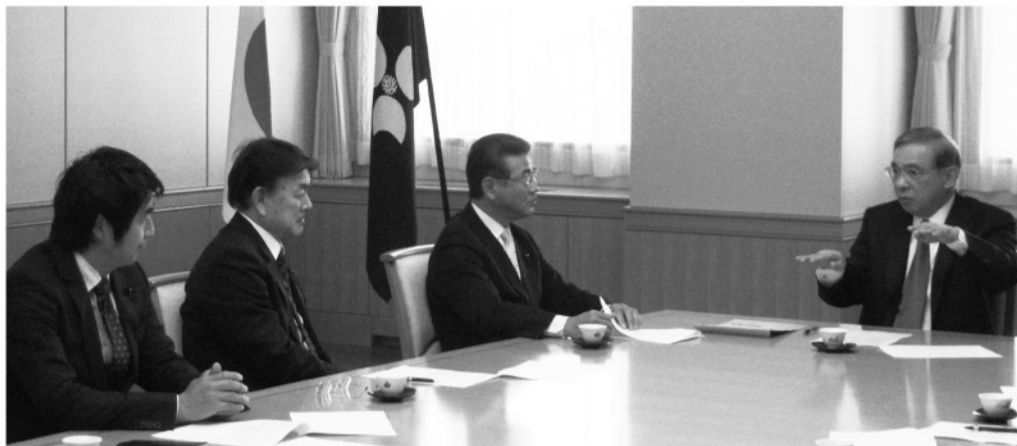
街頭演説1200日  
県政の革命児!

県議会だより

# 後藤かつみ

vol.23

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com  
<http://www.ccrgoto.com/>



知事に予算提言書を提出

# 経済対策と財政健全化の両立を提言

## リベラル群馬、H25年度予算に向けた提言書を知事に提出

将来世代に責任を  
持つ予算提言

リベラル群馬の予算提言は、従来の「何でも要望する」姿勢でなく、将来世代に負担を残さない健全な財政運営を重視した責任ある提言を行っています。  
要望する施策についても、若者の雇用対策や子どもの放射能健康影響調査を求め、将来世代の立場に立った雇用・福祉施策を提言しています。

政権交代による  
放漫財政への逆行を危惧

先の総選挙で自公政権に交代し、13兆円という超大型の景気対策予算が予定されています。しかし、現在の地方財政危機は、90年代後半から景気対策として巨額の公共事業が行われ、地方自治体も国の補助公共事業に付き合う形で巨額の借金を負ったことに起因しています。同じ過ちを繰り返してはいけません。リベラル群馬は予算提言の中で、国の大型景気対策に安易に同調せず、財政規律を守るべきと釘を刺しています。

「道路整備偏重」への対案として  
「公共交通再生」を提言

群馬県は過去には公共交通が盛んな県でしたが、高度成長期以降の道路整備偏重の政策により、公共交通および中心市街地が衰退し、郊外に拡散した都市構造となつてしまいました。それだけでなく、高度成長期に整備した道路等のインフラが老朽化し、その維持管理に巨額の費用を要する状況が今後将来に渡って続くこととなります。一方で、県外・国外からの観光客の誘致や、高齢者の「足」として、公共交通の重

群馬県は過去には公共交通が盛んな県でしたが、高度成長期以降の道路整備偏重の政策により、公共交通および中心市街地が衰退し、郊外に拡散した都市構造となつてしまいました。それだけでなく、高度成長期に整備した道路等のインフラが老朽化し、その維持管理に巨額の費用を要する状況が今後将来に渡って続くこととなります。一方で、県外・国外からの観光客の誘致や、高齢者の「足」として、公共交通の重

リベラル群馬は、「道路整備偏重」政策への対案として、「公共交通の再生強化」提言の柱として掲げ、政策転換を求めています。要件は年々高まってきたります。

### ■ リベラル群馬 予算提言の主な概要 ■

#### 1 経済対策

太陽光・小水力などの再生可能エネルギー事業に地元企業がチャレンジできるよう、資金面等での支援策を提言。

#### 2 雇用対策

「ジョブカフェぐんま」を核に、若者と地元企業とのマッチング強化策を講じることを提言。  
障害者雇用に積極的に取り組む企業等に対する税・財政面での支援策を提言。

#### 3 安心安全な暮らし

放射能による子どもの健康影響調査を県独自で実施するよう提言。

#### 4 公共交通の再生強化

世界遺産や古墳などの観光資源の発信と合わせ、観光地を繋ぐ公共交通の強化を提言。  
高齢化社会を見据え、公共交通の再生強化を軸としたまちづくりへの転換を提言。

#### 5 行財政改革

国の大型景気対策に安易に同調せず、将来世代に負担を残さない財政運営を行うことを提言。  
高崎競馬場跡地における大型展示場建設計画に対し、客観的な需要調査等を行ない、採算性等の情報を県民に明らかにするよう提言。



地域水源を活かした山梨県都留市の水車型小水力発電の取り組みを視察



小栗上野介ゆかりの横須賀と倉淵の交流に努力  
(左：村上東善寺住職、中：吉田横須賀市長)